



研究部会報告

●マーケティング・サイエンス●

●第2回

日時：5月10日(月) 18:00~20:00 出席者：35名

場所：筑波大学大塚校舎G202教室

テーマと講師：

- (1)「マーケティングにおける多変量解析」北澤英理子
(東京ガス)

マーケティング分野でよく用いられている多変量解析の手法とその適用方法を論じた。

- (2)「家庭用ガスエアコンの市場性分析」笹山 晋一 (東京ガス)

家庭用ガスエアコンの市場性を評価できるようなサブユーザーとエンドユーザーの選択モデルからなる統合モデルを提示した。また、ブートストラップ法によってシェア予測値の信頼区間を推定し、その評価を行なった。

●CIM環境下における生産計画とスケジューリング●

●第12回

日時：5月13日(木) 18:30~20:30 出席者：23名

場所：青山学院大学 総研ビル7階 第13会議室

テーマと講師：

「多品目経済ロットサイズスケジューリングの自動生成アルゴリズム」村松 健児 (東海大学)

複数種の製品があり、それぞれに定常需要がある。1台の機械を切り替えて、どの品目に品切れが起きないように、かつ、切り替え費用と在庫保管費に関して最も経済的な生産をするためのスケジュールを立てたい。この問題の最適スケジュールを生成する、新しい理論と計算法を提案した。定式化はDPである。生産する品目の順序づけという離散的な側面と各々のロットサイズの決定という連続的な側面を同時に最適化する。実用面を数値例で説明した。段取り替え時間の扱いなどについて質疑応答があった。日本経営工学会誌 Vol.43, No. 3, pp. 151-178を参照。

●システムモデリング手法とその活用●

●第9回

日時：5月15日(土) 14:00~17:00

場所：九州大学経済学部 4階407号室

テーマと講師：

- 1.「分割財配分ルールとその遂行可能性」都築 治彦
(九州大学経済学部)各人の留保価値について不完全な情報が与えられているケースの1つについて分割財配分ルールの均衡解を求めた。
- 2.「最適選択問題について」中井 達 (九州大学経済学部) 最適選択問題のクラスについて分類し、解の漸化式とその性質について論じた。

●合意形成・政策●

●第2回

日時：5月15日(土) 14:00~17:00 出席者：9名

場所：三菱総研3F会議室

テーマと講師：

「DSM (Demand Side Management) におけるコラボレイティブ (協同意思決定)」木村 誠 (日科技研)
電力需給関係において従来の供給者論理から需要者論理への転換が活発化している米国の事例が紹介され、一方の当事者だけの利害としてではなく、規制側・供給側・需要側・市民運動側の関係者それぞれに共通の利益は何かという捉え方から合意形成の道をさぐる進め方に、国情の違いはあるものの、部会の合意形成研究活動に貴重な示唆を与えた。また、柴田祐作氏から、アンケートによれば合意形成が重要かつ困難な問題ととらえられている傾向が読みとれる状況が報告され、部会活動の意義を再認識することとなった。

●ORの計算環境●

●第15回

日時：5月29日(土) 14:00~15:30 出席者：8名

場所：北海道大学 経済学部大学院講義室

テーマと講師：「ORの計算環境に関する研究の現状と動向」関口 恭毅 (北海道大学 経済学部)

近年活発化しているCEO R (ORの計算環境)の研究分野がORのプロセスと関係者の組合せによって分類整理され、統一的なサーベイがなされた。それにより、この分野の統合的支援環境の不足、ORのためのORとしての必要性が明らかにされた。